

特別支援教育におけるダンスの有効性の検討

Keyword：特別支援教育、ダンス、コミュニケーション、授業実践

背景と目的

学校教育の中でダンスは自己表現やコミュニケーションを促すための活動として期待されている。ダンスにおけるコミュニケーションとは動きの共有を行うことによる感情のやりとりであり、そこには自己や他者への気付きが伴う。本研究では特別支援学校における動きの共有に重点を置いたダンス授業を実施し、自己理解や他者意識を促す授業モデルの検討を行う。

結果

自分で動きを選び共有することを大きな目的とし、②～④を合わせる形で学習内容を大きく3つにわけることとした。

	学習内容	ねらい
① ウォームアップ・ダンス	・身体ほぐしの運動（ストレッチ） ・ダンス ・動画撮影	・心と身体をほぐす
② 課題学習	・課題曲を聴く ・自ら表現を引き出す	・課題の理解、意識づけ
③ 共有	・動きを出し合う	・自分の意思を表現する
④ 創作学習	・出した動きを組み立てる ・動きと曲を合わせる	・他者の動きを受け止める、認める ・様々な表現を学ぶ
⑤ みせあい	・動画鑑賞 ・アンケート（振り返りシート）の記入	・自分のがんばりを振り返り、互のよいところを認め合う

学習内容	ねらい
①ウォームアップ・ダンス	・身体ほぐしの運動（ストレッチ） ・ダンス ・動画撮影
②創作学習	・題材への意識づけ ・動きを表現する ・他者の動きを受け止める、認める ・様々な表現を学ぶ、経験する
③振り返り	・動画鑑賞（希望者のみ） ・アンケート（振り返りシート）の記入



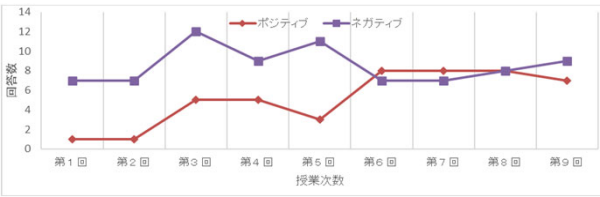
②創作学習…
選択型即興ダンスで提示された動きの中から好きなものを選択し、作品を創っていく。

研究方法

授業の実施：「全国ダンス・表現運動授業研究会」が提案する「創作学習モデル」を参考に授業作りを行う。
アンケートの分析：全9回実施し、生徒のダンスに対する意識の変容を見る。

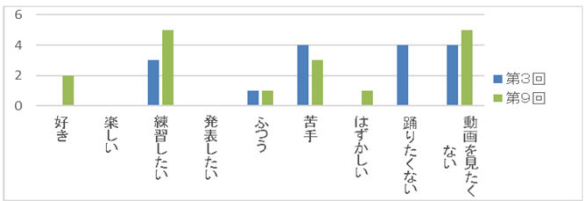
No.	質問内容	回答（選択肢）
1	ダンスについて教えてください。いくつかOにしてもよいです。	・好き ・ふつう ・楽しい ・にがて ・はずかしい ・おどろたくない ・練習したい ・発表したい ・動画を見たくない
2	今日の感想があれば書きましょう。	自由記述

①ダンスについての印象の変化（ポジティブ面とネガティブ面の比較）



全体的にポジティブ面と比べてネガティブ面についての回答が多いが、ポジティブ面の回答は第1回から第9回にかけて上昇している。

②ダンスについての印象の変化（項目ごとの推移）



「好き」 0名→2名 増加
「踊りたくない」 4名→0名 減少
「苦手」「動画を見たくない」 ほぼ変化なし

考察

本研究で実施した授業モデルでは、ウォームアップ・ダンスは毎回同じダンスを踊り、創作学習は使用曲や振り付けは異なるが同様の手順で行った。ダンスに対してネガティブなイメージをもっている生徒にとって課題や手順が「同じ」であることは安心感を与え、ダンス課題に向き合えるきっかけとなった。しかし苦手意識や不安が完全に解消されたというわけではなく、まだまだ自己を受け入れられないという思いも見受けられた。自由記述からはダンスに取り組む生徒たちにとって振り付けや選曲は関心の高い項目であることがわかった。さらに「自分が提案した動きや曲が採用される」という経験の積み重ねが自己肯定感への高まりや他者理解へと繋がっていくだろう。

このようなことから本研究の授業モデルは、一人ひとりが無理なく自分の思いを表出でき、動きや曲の共有による思いのやりとりが可能であり、他者を意識することにも繋がるものであるといえる。

文献

- 1) 松本千代栄・山田敦子（1982）：舞踊課題と創作学習モデル—高等学校における実験授業研究—。日本女子体育連盟紀要，81，1-41。
- 2) 大沼幸子・崎山ゆかり・町田章一・松原豊（2012）：ダンスセラピーの理論と実践から心へのヒーリング・アート。ジ・アース教育新社。
- 3) 宮本乙女・中村恭子・中村なおみ（2015）：みんなでトライ！表現運動の授業。大修館書店。
- 4) 向出章子（2020）：ダンスの授業における大学生の心理変容の検討—対人関係に着目して—。教育学研究論集，15，62-69。